

東京多摩プロバスニュース

第 38 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：編集委員会 2011.9.7.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を

第 8 期 定期総会、第 85 回 定例会

日 時：平成 23 年 7 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：関戸公民館第2学習室

出席者：定期総会 26 名、定例会 27 名(会員数 36 名)

第 86 回 定例会

日 時：平成 23 年 8 月 3 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：関戸公民館第2学習室

出席者：30 名(会員数 36 名)

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を

会長 大澤 亘



私は、プロバスクラブの活動は会員相互の研修・親睦と地域社会への奉仕が車の両輪と考えますので、お互いによく学びよく遊ぶとともに、現役時代の知識経験をもとに地域社会に奉仕したい。そしてこのことが同時に会員個人個人にとっては自己研鑽・向上につながると思います。このような思いで今年度のスローガンを考えました。

今年度は、当クラブの第8期事業年度となりますので、来るべき2014年(平成26年)の創立10周年をどのように迎えるか、具体的にその準備に取りかかかなければなりません。また、輝かしい創立10周年を迎えるためには、今ここでしなければならぬことが多々あります。これも皆さんと相談しながら実行していきたいと思っております。

また、今年度の大事な課題の一つは、全日本プロバス協議会および近隣のプロバスクラブとの交流の拡大です。5月の横濱プロバス倶楽部との交流会はその第一歩でしたが、同倶楽部の万全のお手配により大変充実したものとなり、将来への希望が持てるようになりました。また、日野プロバスクラブの創立もあり、八王子プロバスクラブと共に多摩地区のプロバスクラブの連携強化が図れれば良いと思っております。

本年3月11日の東日本大震災以来、わがプロバスクラブをとりまく環境も厳しくなりました。この地震はまだ収束したわけではなく、ときに大きな余震が発生していますし、首都直下型地震発生の可能性もかねてから指摘されているところです。この際、会員の家庭での防災の備えを是非見なおしていただきたい。

最後に、私の好きな言葉に「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」というのがあります。賢者になろうとしてもなれないのが実情ですが、できる限り勉強を続けて物事の判断や進むべき方向に誤りの無いようにしたいと思っております。



深緑煌めくユリノキ並木(多摩市中央公園のレンガ坂)

第 8 期定期総会（平成 23 年度）が 7 月 6 日（水）午後 1 時 30 分～3 時、関戸公民館第 2 学習室で開催された。議案内容にのっとり、要約して報告する。

鴻池敬和会長の開会挨拶後、神谷真一幹事の司会で議長に上田清会員、書記に小西加葉子会員を選出、議事録署名人に上田議長、村上伸茲監査、永島仁会員が選任された。

次いで、上田議長が会則 11 条 3 項により総会成立を確認し（議決権所有会員 36 名、出席 26 名、委任状 5 名）、議長の議事進行による審議がなされ、第 1 号議案から第 6 号議案まですべて承認された。

第 1 号議案 平成 22 年度活動報告 神谷真一幹事

1. 第 7 期総括報告

「知恵と経験を生かし、地域社会に発信しよう」をスローガンとして、あらゆる人々と互いに協働し手を携えて、多様な高齢社会モデルを構築するという基本目標を立て活動を展開した。理事会 13 回、定例会 12 回。

2. 各委員会活動報告

1) 総務委員会

西村政晃委員長

- ① 会員状況；入退会の移動無く、会員数は 36 名。
- ② 定例会；12 回開催。理事会、各委員会報告やサークル活動報告に続き、卓話および外部者による講話、会員みんなによる座談会などを行った。
- ③ 名簿類の整備；会員手帳を全面改定し、併せて会員名簿・会員プロフィール等記載内容を手直した。
- ④ 有料老人ホームの見学会を実施。

2) 研修・親睦委員会

関根正敏委員長

ウォーキングや懇親会・研修旅行などを通し、会員の自己研鑽と相互理解を深めた。特に新年カルタ大会や横濱 P C との交流及び昼食会付きの定例会など新たな試みを織り込み、計 8 回の実施。

3) 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

- ① 「東京多摩プロバスクラブフェア 2011」に注力。
- ② 「認知症サポーター講習会」を定例会で開催。
- ③ プロバス寺子屋活動(学校教育支援)

「国際理解授業」と「出前そろばん授業」を実施。

4) 広報委員会

平田哲郎委員長

会報「東京多摩プロバスニュース」の充実を図り、多くの会員に執筆を依頼し、親しまれる会報に努め、隔月発行。ホームページも定期的更新を行い、充実を図った。

5) オープンプロバスプロジェクト 神谷真一幹事

“東京多摩プロバスクラブフェア 2011”と銘打ち、日頃より地域社会で活動して来た会員の活動や「私の一品」などの展示、講演会「江戸しぐさ」、小中学生を対象にした工作・絵画、更には音楽や落語など多岐にわたる催しを一週間開催。来場者は延べ 5 百余名。

6) 環境問題プロジェクト

稲田興リーダー

地球温暖化防止活動の意識啓発を行い、会員の炭酸ガス排出量を年 4 回実測。改善アイデアを提示。また当会独自の活動テーマを検討し 3 つを選び出した。

第 2 号議案 平成 22 年度会計決算書・備品目録

堀内陽二会計

第 3 号議案 平成 22 年度監査報告

村上伸茲監査

第 4 号議案 平成 23 年度 理事選出

会長	大澤 亘
副会長（会長エレクト）	中村 昭夫
幹事	稲田 興
会計	山田 正司
総務委員会委員長	北村 克彦
研修・親睦委員会委員長	滝川 益男
地域奉仕委員会委員長	西村 政晃
広報委員会委員長	増山 敏夫
監査（業務監査・会計監査）	鴻池 敬和



新任の理事：左から西村地域奉仕委員長・北村総務委員長・山田会計・中村副会長・大澤会長・稲田幹事・滝川研修親睦委員長・増山広報委員長

第 5 号議案 平成 23 年度活動計画

大澤亘会長

<スローガン>

「共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を」

1. 基本目標と活動方針

1) 基本目標

創立 10 周年を控え、これまでの活動を基礎に、対外的には地域社会への貢献と他プロバスクラブとの交流を一層発展させ、あわせて他の団体等との協働、提携をはかる。対内的には研修・親睦活動、サークル活動の更なる充実をはかる。

2) 活動方針

- ① 経済・社会情勢の変化や自然環境の変動に応じて市民が高い関心を持つ事柄について啓発活動を行い、地域社会への貢献を目指す。
- ② 10 周年記念事業に備えて、資金の手当て・事業計画の検討、諸資料の整備などに着手する。
- ③ 新会員の加入促進

◇◇◇ 第 8 回定期総会(つづき) ◇◇◇

2. 委員会・プロジェクトチームの活動計画

- 1) 総務委員会 北村克彦委員長
 クラブ運営の庶務的、調整的事項を担当し、あわせて組織の潤骨油として、各委員会の相互連携を図る。
 ①定例会の開催 ②卓話、講話、座談会の充実
 ③他団体との連携推進 ④クラブ運営の改善・充実
- 2) 研修・親睦委員会 滝川益男委員長
 会員間の融和親睦を図ると共に、各種研修計画を実施し会員各自の向上を目指す。他クラブとの親睦交流を通じてプロバス精神の学習・深化に努める。
 ①研修計画；一泊研修旅行・ウォーキング・東京下町探訪 ②親睦計画；お花見とバーベキュー・忘年会・その他 ③他のプロバスクラブとの親睦交流
- 3) 地域奉仕委員会 西村政晃委員長
 会員の豊かな経験を生かし、学校での出前授業、環境問題への貢献など、地道な地域奉仕活動を実施する。①市内学校での出前授業；「そろばん教室」「海外経験会員による国際理解授業」「わが国の伝統文化講座」等 ②市民講座の開催 ③環境問題への貢献 ④他団体との協働活動の推進
- 4) 広報委員会 登坂征一郎副委員長
 会報の発行、ホームページの運営をはじめ、当クラブの広報諸活動にあたる。会員相互の活動の認識を深め一層の活性化を図ると共に、対外的にも当ク

ブの活動を積極的に発信する。

- ①「東京多摩プロバスニュース」の編集、発行、配布 ②ホームページの運営 ③地域メディアの活用と他プロバスクラブとの交流
- 5) 環境問題プロジェクト 稲田興リーダー
 地域に密着した環境問題の改善に、実質的に取り組む形を作っていく
 ①地球温暖化防止活動 ②環境問題啓発活動
 ③マイツリー計画 ④養蜂プロジェクト

第 6 号議案 平成 23 年度会計予算 山田正司会計



定例会後の懇親会で

午後 5 時 30 分より京王クラブにて、東京多摩ロータリークラブ会長高野隆夫様、副会長林彰一様をお迎えし開催。今回は東日本大震災被害への励ましとして「北上夜曲」「上を向いて歩こう」「北国の春」等、最後に会員作詞の「プロバスとみちずれに」を合唱し宴を盛り上げ、今期の明るい希望を願っての懇親会となりました。(鈴木達夫会員記)

◇◇◇ 幹事・プロジェクト報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

稲田興幹事

- 1) 関係先への新任挨拶
 ・7月12日(火)東京多摩ロータリークラブ
 ・7月26日(月)多摩市役所訪問
 ・全日本プロバス協議会はじめ関係機関へ、役員改選の挨拶状送付
- 2) 理事会の運営
 理事会メンバーは、理事8名プラス監査、副幹事を含む10名で構成する。メンバーからの提案内容を審議し、プロバスの活動の方向付けをし、定例会でそれを決定させながら進める。

2. 4 月度炭酸ガス排出量調査結果：15%削減！

環境問題プロジェクトリーダー 稲田興

調査月	対象数 (人)	平均値 (kg/日・人)	最少値 (kg/日・人)	最大値 (kg/日・人)	最大/最小 (倍)
H22/4	21	6.6	3.1	14.5	4.7
H23/4	23	5.6	2.4	10.3	4.3

4 月実績を昨年 4 月と比べると 23 名中 2 人だけ炭酸ガ

ス排出量を増加させたが、大部分(21名)の方々には大幅に削減(平均値で15%)。改善努力が明らかに数字に表れており、全体的な活動の流れは大変良い。…が問題もある。
 ◆エネルギー消費量の多い方々の改善努力がまだまだ足りない。ワーストはベストの方の約4倍のエネルギーを消費して生活している。今回の結果報告表には、全対象者中自分が何番目なのかを追加表示した。
 ◆前年比 15%削減できた主要因がガソリンと灯油だった。CO2 排出量の最大要因は電気利用によるものであるが、電気だけで見ると9%の削減に止まっている。7月1日スタートの15%削減運動にまだ及ばない。東電全体需要の3割は一般家庭が占めており、大口需要家に対する節電規制とは別に自主努力なので、この夏どうなるか心配。特にピーク時(AM9~PM8)の節電が要求される。

これを意識して、節電努力を積み重ねこの夏を乗り切り、秋以降も同じ考えで継続していけば、炭酸ガス排出量削減に直結するし、無駄に電気代を払わなくて済み一石二鳥であるという狙いですので、是非ご努力を…。

「今年の夏を如何に乗り切るか」

〈はじめに〉

今夏は東日本大震災によって供給電力不足を来し、産業界のみならず家庭を含む電力需要家全般で昨年比15%の節電をすることになった。

7月度定例会において、会員各位が15%節電の認識を深め、節電の具体策等について座談会を実施した。

まず、当クラブ環境問題プロジェクトが昨年から進めてきた二酸化炭素排出量削減の実態調査結果を稲田興プロジェクトリーダーから報告、その削減実績ベストスリーの古澤靖雄・上田清および永田宗義会員各位にパネラーとして消費エネルギーの削減の具体策などの紹介、また、稲田リーダーが自宅で実施した節電の具体的な方法とその成果を発表していただいた。

環境省の「家庭でできる節電アクション、7つのポイント」をもとに作成した資料を参考に配布し、司会の登坂征一郎会員から説明をした。(文責 登坂会員)

◆パネラーの省エネのポイント；

①古澤会員；生活スタイルの変化(車利用の機会減少、朝の体操などで早寝早起き)、高台で日当たり・風通しがよくエアコンはほとんど使わない、ボランティアでコミュニティセンターなどで活動(外出機会が多い)。

②上田会員；日当たり・風通しがよくエアコンはほとんど使わない。エコカーに買い替え、外食の機会が多い。

③永田会員；健康維持に歩く(外出機会が多い)、エアコンはほとんど使わない、気温10℃以上なら夏冬ともにシャワーの活用、白熱電球はLED化、窓は二重化(結露防止、断熱効果)、テレビは主電源をON/OFFなど。

◆稲田会員の節電具体策のポイント；

節電対策としては、各機器の消費電力を実測し“無駄な電気は使わない”を基本としている。エアコンはほとんど使わない(扇風機の活用、ドライ運転、フィルターの清掃、室外機はよしらずで直射日光を避ける)、窓(よしらず・ゴーヤの植栽・断熱シート)、冷蔵庫(温度設定を“強”から“中”に変更、扉の開閉は要領よく短時間に、食品は詰め過ぎない)、炊飯器(炊飯のみ、ご飯はジップブロックで冷凍保存、電子レンジで温める)など。

①節電の目標；下記対策で他前年同月比20%とする

- ・照明器具；白熱電球4⇒蛍光灯化
220w x 6h x 30日 ⇒ 約40kWh/月の節電・・・[A]
- ・PCのモデムの電源は使用時のみとする
50kWh ⇒ 約8kWh/月の節電・・・・・・・・[B]
- ・その他照明器具の間引き

②対策費用；[A] + [B] ⇒ ¥3,740 + ¥2,780

◆質疑応答

Q1：パソコンの電源を切っても問題ないか？

A1；作成したファイルは保存すれば問題はない。大元の電源のON/OFFで待機電力もカットできます。

武道に魅せられて

小西加葉子会員

多摩市に昭和60年に市立武道館が開館したのは、多摩市は他市に比べると武道人口(特に剣道)が多いためだと思います。何故だと思いますか？

昭和20年にGHQが武道禁止令を発令しました。そのため各役場では地域の防具などを集め、まとめて燃やしたそうです。その係だった人は、その中に立派な防具もあって悪いこと承知で、自宅の納屋に隠したそうです。いつかまた剣道ができる時代になった時に役に立つだろうと…

思いは昭和28年に武道解禁と同時に実現したそうです。この話は本人から伺った話で、私は本当だと思っています。

私も最初は剣道に入門しました。足の裏の皮がむける程すり足の練習をしたり、面をかぶって男性たちと試合もしました。弓道、居合、杖道なども段を取得し熱心にお稽古を続けていましたが、今は直心影流の魅力に取り付けられ30年余り経ちます。

薙刀の歴史としましては、戦後の新しいスポーツとして用具も考案され、国体種目になっております。今年は4年に一度世界大会が姫路の県立武道館で開催され、日本が優勝しました。最近の若い方は試合に勝つとガッツポーズをしたりしますが、薙刀の世界では禁止されています。試合に勝って反省、負けて感謝の世界です。

そもそも薙刀は、鎌倉時代には男子が実戦で馬上より歩兵たちの首をさらったりするのに有利な武器でした。その後徳川時代には、武家子女の人間形成のため、心得と護身用として各流派ができました。現在二大流派として、関西では「天道流」、関東では「直心影流」が有名です。直心影流は現在の宗家で18代続いています。



小西会員の直心影流小脇の構え

当流の特徴は、小脇の構え・車返しの技(水車、風車)・山嵐の形(かた)などのように自然現象の中に、流れる力の動きを技の中に取り入れてあります。薙刀、木刀、短刀、それぞれに鍔はありません。『鍔がなくても受けてみせるぞ』の心意気です。

日本の『道』は、仁・義・礼の徳で、和・淑・凜の心構えであると思います。

武道の魅力は、稽古を積むことにより、人として調和のとれた礼儀正しい、思いやりのある人を目指すのではないかと思います。次の世代の子供達に古武道の良さを伝えていきたいと思っています。

ホタル移植の課題

村上伸茲会員

第44回全国ホタル研究大会岡山研究発表会が今年6月10日～12日、鏡野町で開催された。筆者は表題の研究発表を行った。その要約を発表する。

1. はじめに

2007年6月、全国ホタル研究会は、「ホタル類等、生物集団の新規・追加移植および環境変化に関する指針」(以下、ホタル移植指針と称す)を制定した。この指針は、ホタルについて生物多様性/遺伝的多様性を保全するために、安易な移植(放流)を中止することを定めたものである。

今回の発表では、主にゲンジボタルについて、「保全遺伝学」の考えのもとに、関係者が「ホタル移植指針」を周知・実践するための課題とその解決案について提案した。課題は、ホタル生息地域毎に異なり、まさしく「THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY」であるが、粘り強く解決していくことが重要である。

2. 遺伝子汚染(遺伝子攪乱、遺伝子移入)とは

遺伝子汚染とは、野生生物の個体群の遺伝子プール(遺伝子構成)が、人間活動の影響によって近縁個体群と交雑し、変化する現象をいう。

在来個体群との交雑が危惧される近縁個体群は、他の地域に存在する個体群が移入される場合がある。同じ生物種であっても、生息地域が異なるため遺伝子の交流を欠く、あるいは完全に隔離されていなくとも一定の障壁が存在するなどの理由で、通常は地理的に異なる個体群(生態型、亜種など)相互の間では遺伝子の構成(遺伝子プール)が微妙に異っている。

ある在来個体群の生息域に、別の個体群が人為的に持ち込まれることにより、両者が交雑して純粋な在来個体群の持つ遺伝子プールに変化が生じる。この在来個体群の遺伝子プールの状態の不可逆的消失および、その途中の過程を遺伝子汚染という。

ホタルはとくに人為的移入の可能性の高い昆虫であるが、近年、移入個体群と在来個体群のあいだで交雑が起きたという報告はみられない。ゲンジボタルは比較的移動性が乏しく、地理的な分化の傾向が強く現れている種だからかもしれない。しかし、在来個体群の個体数の減少がみられる。移入が在来個体群に及ぼす影響については、各学会・研究機関、環境省などとの共同調査・研究が望まれる。

3. 遺伝的多様性保全

生物多様性センターは、遺伝的多様性を守るために、次の二項目の研究をあげている。

- (1) ヒトゲノム計画と同じように、ホタルのすべての遺伝子配列を明らかにする。
- (2) 移入個体群がその地域の在来個体群にあたる遺伝的影響の調査。

一般に、形質は多くの遺伝子が関係するといわれているので、ホタルのゲノムの全体図が明らかになることが望ま

れる。また、遺伝的多様性を支えている地域集団の保全のために守るべき次の三項目をあげている。

- (1) 違う地域のホタルを絶対に持ち込まない。
- (2) 同じ地域の種でも、同じ親からの子孫ばかりを持ち込まない(近交弱勢を避ける)。
- (3) 本来生息している場所で保存を行う。

4. 今後の展開

ホタル関係者が、「ホタル移植指針」「保全遺伝学」「ホタルの遺伝的多様性」の意味することを理解するために、以下のプログラムを展開し、さらに発展させるために「プロジェクトチーム」の結成が望まれる。

- ・第一段階: 「ホタルの遺伝的多様性はなぜ守らなければならないのか」、「遺伝子汚染(遺伝子攪乱)の危険性は」などをまとめた解説書(ホタル読本)の作成。ホタル発光周期の測定法・遺伝子配列分析法・データ解析法の標準化、ホタル用語の標準化と解説書、移植時のモニタリング法の標準化を行う。
- ・第二段階: 会員間および会員・市民団体・行政・大学や研究機関などの間でネットワークを構築し、所有している情報の共有化、遺伝的多様性保全の成功例の紹介、Q&Aなどを行う。
- ・第三段階: 学校教育への参加は、持続可能な開発のための教育(ESD)やスーパーサイエンスハイスクールプログラム(SSH)などと協働して行う。
- ・第四段階: 地域のホタルの生息環境について以下の保全遺伝学的アセスメントを行う。まず、
 - ① 他地区からの移植(移入)種が生育しているか、その程度は、移植元はどこか、の分析を行う。今後の対策計画を作成する。
 - ② 遺伝的多様性指標の評価。
 - ③ 生態系の多様性。
 - ④ 在来個体群の歴史的価値などをまとめる。
- ・第五段階: 移入個体群が移植により、在来個体群に与える影響についての調査・研究(生息域外研究)。

5. おわりに

それぞれの地域環境・生息域の中のホタル地域個体群を、適応的に進化し続ける実体として守る。



ゲンジボタル



ヘイケボタル



ヒメボタル



クロモドボタル

代表的なホタル

南アフリカ「ウェストケープPC」



南アフリカ・ケープタウンのテーブルマウンテン

獄中闘争 27 年を経てアパルトヘイト廃止を実現したネルソン・マンデラ——人権の国・南アフリカ共和国でもプロバス活動は盛ん。「全国プロバス協議会」のもと、総数 107 のクラブが 3 地域 10 ブロックに分かれ、平均 40~50 名の会員を擁して多彩な活動を展開している。今回は、ウエスタンケープ地域のウェストケープ PC の活動を、ユーモアたっぷりの同会会報『ホエールテイル』（鯨の尾）から抜粋して紹介する。 (滝川益男会員 訳)

「プロバスイヤー2010年度を振り返って」

会報『ホエールテイル』編集長モニカ・パツソン

2010年度は会員数49名でスタート



会報のマーク

した。最初の定例会は2月。ハル・ホフマイヤー氏の旅行話は出席者全員を魅了し

た。2月16-17日、リゾート地ギブバーク泊旅行。会員12名が参加し極上の一時を楽しんだ。3月度の例会は高齢者投資に関する卓話。N・ラッセル氏は南ア経済上昇の見通しを述べて喜ばれた。同月、当クラブはホスト役として姉妹クラブのブズ・プロバスクラブを迎え入れた。わが地域では初の出来事！

4月は年次総会のためゲストスピーカーなし。5月、オービス社の「空飛ぶ眼科病院」を見学し、価値ある仕事ぶりに感嘆。同月、J・ウィリアムズ女史がボート旅行とピクニックを企画、参加者全員がエンジョイ！6月例会はR・W・ダロル弁護士のユーモアあふれる講話「消費者保護法」。学ぶところ大であった。7月例会でD・ソーエンス博士が「核エネルギー」につき講演。門外漢には初耳のことばかり。この月のピクニックはセントヘレナ湾にアワビ孵化場を見学。興味深いガイドツアーに全員すっかり満足！同月、美しい海岸線を誇るランゲバーンPCの招待でブライ料理、カブトムシ捕り、アコーデオン伴奏の合唱などを経験。これから同クラブへのお返しがいへん！



陶器づくりに励む南アフリカのプロビアンたち

セントヘレナ島へ旅行

8月の例会ではM・デュキット氏が当地でいま話題の「国道 83 号線・西海岸ブーム」に関する賛否両論を語った。9月の例会卓話はJ・ビューシー博士の人生論「わが生涯を振り返る」。10月、南大西洋に浮かぶナポレオンの流刑地セントヘレナ島への旅行を楽しんだ。11月例会では「バーグ川河口管理問題」をB・クラーク、D・シュローダー両博士が講話。同月 30 日、オーウェン港ヨットクラブでの友好夕食会にゲストを含め 50 人が参加、ブライ料理を楽しんだ——「菜食主義者だろうが、果物主義者だろうが、肉食主義者だろうが関係ないよ、誰もが人道主義者になればよいのさ！」。年度末には会員数が 53 人に達した。12月と1月は休会。メリークリスマス！良いお年を！次年度は 2011 年 2 月 1 日（火）定例会をもってスタートする。



南APAのシンボル
ロブスプロバスの実

「新元素発見！」(『ホエールテイル』ジョークコラム)

二つの新しい元素が「元素周期表」に追加されました。

その1=〈元素名〉ウーマニウム。〈元素記号〉WO。

〈重量〉計量しない方が無難。〈物理的性質〉概してふだんは柔軟。形状は丸みを帯び、沸騰点に達することはないが、頻繁に凍結する。扱いが上手いと溶解し、まずいと凍結し続ける。〈化学的性質〉きわめて活性が強く不安定。金・銀・プラチナ・宝石には強い親和力がある。放置するとすぐに暴力化する。珍しい食物の吸収力はきわめて強い。器量のよい同属元素と並べるといささか青く変色する。〈用途〉装飾に適する。富の分散的使用に強い触媒作用を発揮。〈使用上の注意〉爆発性に富むので、扱い方にはくれぐれも注意を！

その2=〈元素名〉マンニウム。〈元素記号〉XY。〈重量〉70±5キロ。〈物理的性質〉室内常温で凝固。純正元素の発見はかなり困難。老化し鈍化した元素は若い元素ほど

活力がない。〈化学的性質〉機会を見つけてはWOへの粘着性を示そうとする。元素記号KDのチャイルディウムと長時間混合すると、爆発を起こしやすい。アルコールにより中和される。〈用途〉不明。〈使用上の注意〉WOが不在になると急速に分解し、異臭を発する。



名勝・リスボンの滝

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇



7&8月の誕生日祝い

7月及び8月に、4名の会員が誕生日を迎えられました。

写真左：

左から7月誕生の
西村政晃会員
滝川道子会員

写真右：

左から8月誕生の
阪東熙子会員
上田 清会員



◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

「つむぎ館」セミナーを開催して

私は平成18年より多摩市関戸・一ノ宮コミュニティセンター「つむぎ館」の運営協議会委員で会計監査を務めている。加えてセミナー委員会委員長になった。そして今回、講演会“原発問題を考える”を企画した。

7月25日、講師に元読売新聞論説委員で科学ジャーナリストの中村政雄氏をお迎えし、55名の参加があり好評だった。

3月11日を境に原発推進の大前提であった安全神話が崩壊した。それまで原発は安全で良いことづくめの“夢のエネルギー”ともいわれていた（吹き込まれていた？）ことである。原発推進は国策（エネルギー基本政策）であった筈、その根幹を揺るがす脱原発だとか、やれ廃止だとか、方向転換するのかもしれないのか訳が判らない。こんなさなかの講演会で、参加者は熱心に耳を傾け真剣な表情が印象的だった。以下、皆さん先刻ご承知のことでしょうが、この活動を通して学んだこと感じたことをメモ的に報告する。

世界の原発は437基（内アメリカ104基、フランス59基、日本54基、他）、日本は第3位の原子力大国で、その日本の推進計画は、2020年までに9基、2030年までに更に14基増設、原発の電力供給の現在の比率30%を50%にもってゆく計画であった。

日本列島は地球の陸地のわずか0.25%なのに、M6以上の世界の地震の20%以上が日本付近で起こる地震多発国である。そして地震予知はできない。以前より東海地震はいつ起きてもおかしくないといわれ、その確率は80数%、それで浜岡原発はストップ。

一方、福島の前年1月の地震発生確率は0.0%だった。25年前のチェルノブイリ原発事故は日本ではあり得ないことと思っていたのだが……。福島原発事故も国際評価尺度で最悪のレベル7とされた。当時世界を震撼させたアメリカスリーマイル島原発事故はレベル5であった。原発問題は今後もまだまだ続くだろうし、使用済み核燃料問題などの難問も抱えている。

このセミナーを開催してみて多くのことを学んだし、考えさせられもしたことである。



堀内陽二会員

イタリアを描く

4月、絵専門の旅行社の企画する「イタリア中部山岳都市を描く」10日間の旅に参加した。総勢13名。全国各地より集まった「旅と絵」を愛する中高年の連中である。

ローマより約100km北にある山岳都市ボマルツォを拠点に、周辺のマルタ、チビタ、モンタルチーノ、シェナなどを訪ねた。いずれも小高い丘の上に立つ中世の面影を残す小さな村や町である。

「ボマルツォ」小さな丘の頂に中世の城塞と館を中心に家々が密集している。狭い道や階段はまさに迷路で、一人歩きは心細くなり、ちょっとした探検気分になる。

「マルタ」ボルセーナ湖畔。有名な観光地ではないので、のんびり絵を楽しんだ。

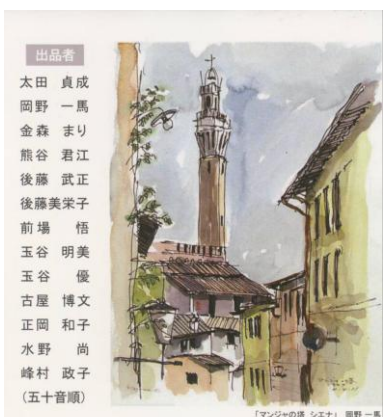
「チビタ」凝灰岩の崖の上に建てられた中世の村。凝灰岩は毎年風化によりぼろぼろと崩れ続けており、「死に行く町」といわれている。長い陸橋状の道が通じており、冬霧が出ると幻想的な海に浮かぶ島のような感じだといわれている。

「シェナ」街全体が世界遺産という。有名なカンポ広場に立ち並ぶ建物群が中世そのものを演出する。

この旅で絵は充分満喫した。絵の好きな連中の旅とはいえ、毎日、朝から晩までではいささか疲れる。夜のビールが待ち遠しくなるが、イタリアビールは美味くない。やはり、ビールは日本が一番だ。

8月、京橋でその仲間と帰国展を開いた。旅で新しい友人もでき、また世間が広がってきた。絵は描く前の構想、描いているときの集中、描いた後の観賞反省と三つの楽しみがある。最後のビール片手の仲間との観賞反省会は、楽しく厳しく、大いに勉強になる。乾杯！

岡野一馬会員



出品者

太田 貞成
岡野 一馬
金森 まり
熊谷 君江
後藤 武正
後藤美栄子
前場 悟
玉谷 明美
玉谷 優
古屋 博文
正岡 和子
水野 尚
峰村 政子
(五十音順)

「マンジャの塔 シェナ」 岡野一馬

イタリア中部山岳都市を描く 帰国展

8月10日(水)～8月16日(火)【日曜休館】
11:00～18:00【初日は12:00から／最終日は16:00まで】



清水公照老師画賛の「天女」

阪東熙子会員

誉れ高き公照老師は 1911 年生まれ、本名を睦治と言
い、終戦を中国廬山で迎え、帰国翌年、塔頭宝巖院住職
となり、1947 年から 1963 年迄の間に数々の学院を創設
し、多くの人材を育てた。なぜかわからぬが「ネギ坊主」
の愛称で呼ばれ、また泥の小仏を手びねりで沢山作り庭
先に置いたことから「泥仏庵」と親しまれた。時折「庭
の仏さん何処ぞへいきはったか、おらんぞ」と身近な人
に語ったという。高僧として特筆すべきは、東大寺大仏
殿大屋根昭和の大修理を 10 年計画で取り組み、その間
に第 207 世と第 208 世別当も務められ、完成の 1980 年
には落慶大法要を営み、国内外よりの賛美を集めた。

さて今回の私の一品は、絹地縦横 90 センチの布で、
賛に「天竺地鼓」と骨太に書かれ、布左下にサイン公照
と朱印をいただいている。画は古希 70 歳の老師が一時
呵成に極彩色で、心の赴くまま弧を以って飛行する天女
を乱舞させ、指 6 本になるもいとわぬ運筆の妙に圧倒さ
せられる。見開いた釣り目で、口ほどに物をいう眼光は、
懦弱な心のつけ入る余地なく「シッカリセイ」と叱咤さ
れ我々に活力を授けてくれる。太陽の塔の岡本太郎や料
紙に顔寄せて仏を画く棟方志功などと共通する、迸る生
命力が見て取れる。

老師は「おかげさんの心」など多くの書籍を残し、1999
年泥仏や天女を連れ 88 歳で旅立たれた。

三笠山の深緑を背景に鷗尾を輝かせている東大寺で、



清水公照老師画賛の「天女」(絹布の 90×90 センチ)

2002 年 10 月盧舎那大仏開眼、1350 年記念庭儀法要が行
われた折、私はこの布を持ち参列し、仏教文化の真髓に
ふれ、読経のるつぼの中で畏敬の念を禁じ得なかった。
そのあと官休庵第 14 代不徹斎献茶の副席に坐り、やっ
と平常にかえり濃茶を拝服した。

いわゆる天女とは、舞い奏で香を焚く天上人と思いき
や、松に衣を掛ける天女、地上に降り立ち水浴する天女
の話を知り、身近な存在となった。おこがましいが、80
年前は童女 4 歳であった私も、水浴好き、羽衣こそたま
ぬが翔けめぐり、今少し流転の末に完全燃焼したきもの
と願ってやまない。

「はたして、如何は、せむ」(『竹取物語』引用)茶謝

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ



編集後記



大澤新会長の意欲溢れる「ごあいさつ」、稲田幹事の
環境問題プロジェクト 1 年の取り組みと座談会の総括、
小西会員の卓話「武道に魅せられて」、村上会員の寄稿
「ホテル移植の課題」、恒例の滝川会員訳・世界プロバ
ス事情は「南ア・ウエストケープ PC」の羨ましいばかり
の豊かなプロバスライフの紹介記事、堀内会員の「つ
むぎ館」セミナー「原発問題を考える」開催記事、岡野
会員の絵仲間とのイタリア山岳都市スケッチ旅行帰国
展記事、いずれも充実した紙面になりました。また阪東
会員の「私の一品」は逸品・・・東大寺別当清水公照老師
画賛の「天女」ですが、阪東会員がこの「天女」に触発
され、さらなる飛翔をとげよう・・・との気持ちが表れる
なかなかの名文です。撮影した永田会員の図版も名文の
イメージを見事に捉えています。(増山広報委員長記)